

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | | | | |
|--------------|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|
| 項目 | 身近な人を対象に演奏 | 病院・施設等にてコンサート コンサートやBGM的演奏を行う | 病院や施設などで集団あるいは 個人の患者さんに対しハーブを 用いてセラピー的な関わりをする | 音楽療法士になり ハーブを使って セラピーを行う | ハーブ奏者として セラピー的な 演奏活動を行う | ベッドサイドでのハーブ演奏 | | | | |
| 内容 | ハーブを通してお互いの心が癒 される時間を共有する | 病院や施設からなかなか出れな い患者さんに楽しい時間を提供 する | 患者さんに演奏を聴いてもらつた りハーブを触ってもらつたり一緒 に演奏したりする | 音楽療法士の資格をもちその経験 や知識をもとにハーブを使用した 音楽療法を行う | ハーブ奏者として自身の確立を し、活動内容をセラピーを念頭に 行っていく | ベッドサイドにて死に逝く人に ハーブの音色をもって送り出し ていく | | | | |
| 実現方法 | 友人や仲間を集めて演奏しあつ たり、聴きあつたりする。 | ボランティア演奏を募集している 病院や施設は多い為そこに申し 込めば比較的簡単に実現可能 | 資格は必ずしも必要ないが、「セ ラピー」を前面に出すなら、最低 限の勉強をして、ボランティアで どこかの病院や施設に入り込み 独自に活動する事は可能。 | 大学等の音楽療法コースに通うか 実技試験や面接試験などをパス する必要あり | 演奏家を名乗るのに資格や試験 は無いので、お客様を集める事 が出来るのであれば実現可能 | 実際に前例がない為、営業努力 により実現は可能だが、ベッドサ イドに限るのは極めて困難 | | | | |
| 実現まで の時間 | すぐにでも実現可能 | ボランティア演奏をしたい人は 多いので、数か月待ちもある。 | 「ハーブ演奏」と「セラピーにつ いての知識」を習得する時間 | 専門の学習をし、最低5年以上 | 自分の得たい収入に比例した 技術を習得する時間 | 直接人の生命に関わる事になる ので高いレベルの演奏力を習得 する時間が必要 | | | | |
| 技術 | 相手が身近な人であれば、それ ほど高いレベルは求められない | ボランティアであっても途中で、 止まるようなことは良くないので ある程度の演奏技術は必要 | 静観して聴いている方だけを相手 するわけではないので、(実際の 現場は患者さんに怒鳴られるこ 日常茶飯事)技術はもちろん強 い精神力を必要とする | | 演奏家として名乗るのに資格や 試験がないので、自分の活動し たいレベルに見合う技術が必要 | 弱っている方ほど、良くも悪くも 音楽の影響を受けやすく低技術 の演奏を聴かせることにより、 さらに悪化してしま場合も考えら れるので高い技術が必要 | | | | |
| 収入 | 基本的には得られない | 基本的にはボランティアなので、 もらえても交通費程度 | 最初から得るのは困難。効果が 認められれば支払われる事も ある。 | 音楽療法士の資格があっても必ず 収入がえられるわけではないが、 ある程度、歴史と実績があるので ハーブセラピストよりは収入につな がる可能性は高い | 技術力・知名度など演奏家として の力量によって変化する | 効果が認められれば報酬を得る 可能性はあるが、現在の日本で は、困難である | | | | |
| 注意点 | あまり注意することはない | 病院や施設の事情により、演奏 時間や対象者の人数などが決め られている事も多いのでその 条件で自分が演奏可能か確認 する必要がある 要求されている時間を演奏する 事が可能か 場所や人数にあわせた楽器の 運搬が可能か | 「人のために役に立ちたい」だけ でなく自分がセラピーをしたい 理由を良く考える必要あり、簡単 な気持ちであれば、壁にぶつか った時に自分がつぶれてしまう 可能性がある | 注意点は多いが、音楽療法の勉強 をしていく段階で必然的に学べる | 料金を頂き演奏する以上、ある 程度の演奏力が必要とされる | 前例がないので「開拓者」として それ相応の努力が必要 病気に對しての専門知識・経験が 浅い場合、様々な病状に対応する (奏法・曲目等)選択が難しい。 病状によっては静かに聴いている 状態だけではなく興奮状態にある 患者さんの前でセラピーを行う技 術や精神力が必要 | | | | |
| 効果 | 健常者相手であっても疲れていま り、うつ病の可能性のある場合 などに予防的な効果が期待できる | 病院の外に出られない人にレク リエーションとして楽しんでもら う | | 専門の知識や経験により患者さん の事を深く理解したセラピーを行な える | 障害や病氣を持った人だけでな く、健常者対象でもリラックスで きる演奏でもセラピーとなり、 対象者の範囲が広い | 治療？ 看取り？ 癒し？ | | | | |
| 考えられる リスク | 特になし | 演奏する側のセラピーへのこだわ りに対し、依頼側(患者・施設)の 希望しているものとの温度差に 苦しむこともある | ボランティアであっても相手を傷 つけてしまつたり、自分が傷つく 可能性はある | | 通常の演奏家と目的が違うため 利益の取りづらい(無料・赤字の) 演奏を行う場合もある | 弱っている方は、良くも悪くも音 楽による影響を受けやすく、患者 さんの好みの演奏ができるかど うか、技術不足による影響での 病状悪化の可能性 人の生死という重大な場面に直面 した後自身の心のケアが継続して 行っていけるかどうか | | | | |
| 難易度 | A | A | B | B | D | C | D | C | D | D |